

安倍元首相の「国葬」について

先月二十七日に、安倍元首相の「国葬」が、日本武道館で執り行われました。憲政史上最長の政権を担い、とりわけ外交・国防・憲法改正の牽引役を果たし、**理想的平和主義に挑んだ政治姿勢は、まさに『国土』というに相応しい信念ある政治家でした。**

昭和四十二年の吉田茂元首相以来、五十五年ぶりで、戦後二例目となる「国葬」は、二百十を超える国・地域から代表が参列しました。

閣議決定された「国葬」を、否定したり、大声で反対したりすることは、自国を貶め、礼節を重んじる日本国民として恥ずかしいことです。

国内的に「国葬」反対派は、安倍憎しの朝日新聞や、日本共産党・左翼の陣営（おそらくロシアや中共のプロパガンダ）であり、海外では、世界広しと雖も、隣の韓国と中共、ロシアの三か国だけでしょう。

**戦後七十七年を経ても、なおGHQの「WGIP」の影響が色濃く残っていることが解りま**

**す。**「モリカケ・桜」という、ほぼマスコミが捏造した些末な案件を、繰り返し取り上げ、旧統一教会との関係で、国を二分することは、もはや「国賊」に値します。

安倍首相に対する世界の評価は、日本のマスコミによる評価と、全く逆です。

地球儀的視野の戦略や、世界の有力政治家との交渉力は、日本の他の政治家を圧倒しています。アメリカ・ロシア・インド・イギリス・オーストラリア等々が、日本を評価するのは、安倍元総理がいて下さったからに他なりません。

**しかも、世界は今、非常時です。平時時ではありません。**

ロシアが、ウクライナを軍事侵攻し、核の使用も選択肢にあると公言しているのです。平和を唱えていれば、平和が保てるというのは幻想です。独裁国家は、そんなに甘くないのです。いつ日本がウクライナになるか分かりません。

「来て見れば、さほどでもなし、富士の山」という川柳がありますが、圧倒的に崇高な山も、近くに見れば、その偉大さに気付かないように、安倍元首相の偉大さは、我々凡人の尺度では、正しく測れないのです。いずれ、歴史が正しく評価してくれるでしょう。

**我々は、世界的スケールの人物と、同時代の日本に生きたということに感謝しましょう。**

そして、我々に与えられた仕事に全力投球し社長として、何が正しいのか、社員さん達に伝えて参りましょう。それが、中小企業の我々の正しい態度だと思います。

今月のポイント

非常時には大局に立つ!!

